

晩夏から晩秋にかけて、森では野生動物が冬支度に慌ただしくなります。暖かいこたつがない動物は、寒い冬を生き延びるために夏毛から冬毛に換毛し、たくさん食べて脂肪を蓄えなければいけません。中には貯食と言って食物の少ない冬に備えて、ドングリやオニグルミなどの堅果類を地面や倒木などの隙間に埋めて隠しておくニホンリスなどもあります。どんな野生動物も生き残るために必死です。

そんな秋に今年こそ私が出会いたい場面があります。それはリスがオニグルミを食べる姿です。森ではリスの姿や食痕は目にするのですが、調査や巡視では時間を十分に取れないため、実際に食べている姿を観察したことはありません。かわいらしい印象とは違い、木から木へと機敏に移動します。私はひそかに「森の忍者」と呼び憧れています。

ニホンリスはオニグルミの緑色の果肉をむいて（もしくは落ちて果肉が腐った後の）種子の殻をきれいに2つに割って中身を食べます。あきる野の森で殻を2つに割って食べることができるのはニホンリスだけですが、親がオニグルミを食べる習慣を持っていないとその子どもはクルミ割り行動を学習できないと言われていました。また、熟練になると早く割ることができ断面がきれいですが、未熟か不器用だと時間がかかり断面が凸凹です。何だか私たち人間と似ていませんか。できれば熟練と未熟なリスがクルミ割り競争をしている所に出会いたいのですが…。

特に野生動物の痕跡を見ている私としては、このように同じ種でも個性や地域性があると実感しています。これは、生息場所や食物事情などの自然環境に左右される野生動物にとっては当然のことと言えます。時として野生動物の痕跡から環境（森）の現状を読みとることができるので、地域の自然の変化を見続けていくことの重要さはここにあると思っています。身近に今までは無かった野生動物の痕跡がありましたら、環境の森推進係まで連絡してください。（加瀬澤）

